

第1回大崎地区における高校の在り方検討会議 会議録

日 時 平成30年9月12日（水）午後2時から午後4時まで
場 所 大崎市図書館 第1・第2研修室
出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

1 開 会

【司会】

それでは定刻となりましたので、始めさせていただきます。本日は大変お忙しいところ、「第1回大崎地区における高校の在り方検討会議」に御出席を賜りありがとうございます。会議に入ります前に、マイクの使用についてお願いがございます。本日は御発言用にマイクを用意しております。御発言の際には、担当者がマイクをお渡しいたしますので、お知らせ願います。

それではただいまから、「第1回大崎地区における高校の在り方検討会議」を開催いたします。初めに本会議は原則公開することといたしますが、今後、公開とすることで十分な検討の実施に支障を及ぼす可能性が想定される等の場合には、その都度会議の公開の有無をお諮りすることを提案させていただきますので御了承願います。

続きまして、開会に当たり宮城県教育庁教育次長 高橋剛彦から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【高橋教育次長】

皆様こんにちは。県の教育次長の高橋でございます。皆様には日頃から、教育行政につきまして御理解と御支援をいただきまして誠にありがとうございます。また本日は大変御多用のところ、第1回となります大崎地区における高校の在り方検討会議に御出席賜りまして改めて感謝を申し上げます。

我々県教委が中心となりまして、昨年度から「(仮称)第3期県立高校将来構想」の策定作業に入っているところでございます。策定に当たっては、県立高等学校将来構想審議会に諮問し、現在議論をいただきながら最終的な案を取りまとめているところでございます。お手元に、答申案ということで今日お配りしておりますけれども、検討の過程で、県内7地区で意見聴取会を開催し、この大崎地区でも7月7日に実施をさせていただきました。地域の高校教育の在り方や高校教育の重要性について、この大崎地区でも、それ以外の地区でも様々な御意見をいただいているところでございます。またパブリックコメントについても、県民の皆様から様々な御意見をいただいているところでございます。

御存じのとおり、本県においても少子高齢化が進展しております。今後更に進んでいくという中で活力ある高校づくりをどう進めていくか、また子供たちから選ばれる高校をど

う作っていくかということは、最も重要な課題であると我々は思っております。後ほど事務局からも大崎地区の現状について説明させていただきますけれども、今後の大崎地区の高校の在り方について、今日お集まりの皆様方、学校関係者の方もいらっしゃいますし、各市町の教育長さん、地域づくりの担当部局の方々から様々な御意見をいただきたいと思っております。その中で大崎地区の高校について、どのようなものがこの地域の子供たちにとって望ましいかということ、皆様方と一緒に我々も考えていきたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

次に、本日お配りの資料の確認をさせていただきます。本日お配りしておりますのは、次第とその裏面の出席者名簿、資料1、資料2、資料3、資料4、最後に当検討会議の開催要項となっておりますが、不足がある場合はお知らせいただければと思います。

ここで御出席いただいた方の御紹介をさせていただきます。座席順に御紹介させていただきます。

大崎市市民協働推進部長の門脇喜典様です。

大崎市教育委員会教育長の熊野充利様です。

涌谷町企画財政課長の佐々木健一様は公務のため、本日は課長補佐の三浦靖幸様に御出席いただいております。

涌谷町教育委員会教育長の佐々木一彦様は公務のため、本日は教育総務課教育総務班長の佐藤達雄様に御出席いただいております。

美里町企画財政課長の佐野仁様です。

大崎市内小中学校長会副会長、大崎市立古川中学校長の鈴木文也様です。

美里町小・中学校長会副会長、美里町立南郷中学校長の及川功次郎様です。

宮城県松山高等学校の徳能順子校長です。

宮城県松山高等学校教育後援会長の奥山恒義様です。

宮城県鹿島台商業高等学校の三浦義雄校長です。

宮城県鹿島台商業高等学校同窓会長の栗田利男様です。

宮城県涌谷高等学校の樋野伸治校長です。

宮城県涌谷高等学校同窓会長の菅原達様です。

宮城県南郷高等学校の佐藤善則校長です。

宮城県南郷高等学校同窓会長の佐々木慶一郎様です。

宮城県小牛田農林高等学校の樽野幸義校長です。

宮城県北部教育事務所の小野寺修所長です。

宮城県北部地方振興事務所地方振興部の新澤博行部長です。

最後に、宮城県教育庁の高橋剛彦教育次長です。

なお、美里町教育委員会教育長の太友義孝様、宮城県小牛田農林高等学校同窓会長の太

田実様、宮城県高等学校PTA連合会大崎支部長の五十嵐亮様、大崎市PTA連合会長の
中川博樹様、遠田郡PTA連合会長の関原英明様は所用のため、本日は御欠席です。

ここからの会議の進行は当検討会議の開催要項に基づき、座長の高橋教育次長にお願い
します。

3 報 告

(1) (仮称) 第3期県立高校将来構想について

【高橋教育次長】

それでは次第のとおり、進めてまいりたいと思います。本日は項目が二つございます。
まず一つ目は報告(1)「(仮称)第3期県立高校将来構想について」でございますけれど
も、事務局から説明をお願いします。

【事務局(西城教育企画室教育改革班長)】

事務局の教育庁教育企画室教育改革班の西城と申します。私より資料の説明をさせてい
ただきたいと思います。

まずはじめに、当検討会議の開催趣旨からお話ししたいと思います。お手元の開催要項
を御覧ください。要項の第1になりますが、目的です。今後の大崎地区において想定され
る生徒数の減少等を踏まえ、地域のニーズに応じた魅力ある高校づくりを推進するため開
催するものであります。会議の意見交換の対象事項といたしましては、要項の第2になり
ますが、(1)大崎地区における高校の現状と今後の見通しに関する事、(2)望まれる
人材育成と学校づくりに関する事、(3)学校配置に関する事、(4)その他、検討に
当たり必要な事項に関する事、としております。要項第3の会議の構成員は、裏面の表
のとおりとなっております。要項第4、会議の座長ですが、宮城県教育庁教育次長が務め
ることとしております。なお、要項第5にありますとおり検討会議は宮城県教育委員会教
育長が招集いたしますが、県教育長は、必要があると認める時は検討会議に構成員以外
の者を出席させることができることとしております。要項については以上です。

それでは、(仮称)第3期県立高校将来構想の説明に入ります。資料1及び資料2をお手
元に御準備ください。資料1は、(仮称)第3期県立高校将来構想の概要をまとめたもの、
また資料2は8月28日に開催した第6回県立高等学校将来構想審議会において資料とし
て使用しました(仮称)第3期県立高校将来構想答申案となっております。

まず、資料1の1ページを御覧ください。項目1、概要になります。本県では、高校教
育改革の基本的な構想として、それぞれ10年間を計画期間とする「県立高校将来構想」
を平成13年3月に、また「新県立高校将来構想」を平成22年3月に策定し、魅力ある
高校づくりを目指して、志教育の推進ですとか地域のニーズに応える高校づくり、生徒数
の減少に対応した学級減や学校再編などの高校教育改革に取り組んできたところでござい

ます。しかしながら、少子高齢化の急速な進展や震災後の社会環境の変化の中で、復興後を見据えた次代を担う人材の育成や地方創生やグローバル化への対応等が重要となっていること、また、様々な学習歴を持つ生徒一人一人が個性や能力を活かして学び、地域社会の一員として能力を発揮していくことができるよう体制を整えていく必要があることなどから、平成32年度までとなっている現構想の終了を待たずに、次期将来構想を前倒しして策定することとし、昨年度7月から有識者等で構成する「県立高等学校将来構想審議会」を開催し、検討を進めております。

「県立高等学校将来構想審議会」は、この8月までに6回開催しております。今年5月に開催しました第5回審議会におきまして、答申中間案を審議し、その後6月に答申中間案を公表し、6月から7月にかけてパブリックコメントや地区別意見聴取会を実施したところです。資料には記載しておりませんが、パブリックコメントでは21名の方から111件、地区別意見聴取会では45名の方から330件の御意見をいただきました。いただいた御意見につきましては、8月に開催した第6回審議会において資料としてまとめておりますので、後ほど教育企画室のホームページで御確認いただければと思います。いただいた御意見を踏まえまして、第6回審議会では答申案について御審議いただいたところでございます。なお、次期将来構想につきましては、今年度中の策定を予定しております。

次に、次期将来構想のベースとなる（仮称）第3期県立高校将来構想答申案の全体像を簡単に御紹介したいと思います。資料2を御覧ください。こちらの資料は、第6回審議会で使用した資料であり、答申として確定したものではありませんので御注意いただきたいと思っております。まず表紙をめくっていただきまして、目次がございまして、全体は5章で構成しております。第1章及び第2章が構想の前提となる部分、現状と課題や構想の策定の趣旨等を記載しております。第3章及び第4章がこの構想の核となる部分です。第3章では、今回の構想で初めて明示する「本県高校教育の目指す姿」を人づくりの方向性と学校づくりの方向性に分けて記載しております。資料9ページになりますが、第3章「本県高校教育の目指す姿」のところでは、まず目指す人づくりの方向性として「豊かな心、健やかな体と自ら考え行動する力を持ち、自己実現、社会貢献できる人づくり」、「ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興と郷土の発展を支える人づくり」、それから「異文化を受容できる力を備えるとともに、グローバルな視点を持ち、多様な人々と協働して新たな価値を創造できる人づくり」の3点にまとめております。次に目指す学校づくりの方向性としてこちらも3点になりますけれども、「生徒一人一人を大切に育み、多様な個性や能力を最大限に伸ばす学校づくり」、「生徒一人一人の興味・関心や進路希望に応じるとともに、社会のニーズを踏まえた特色ある学校づくり」、10ページになりますが、「地域に根ざし、地域に貢献できる学校づくり」ということで3点挙げております。

目次に戻っていただきまして、第4章につきましては、第3章の目指す姿を受けて、高校教育改革の取組に関する方向性を示しております。1の「未来を担う高い志を持つ人づ

くり」では、「(1) 教育内容の充実」として、志教育の更なる推進や国際教育の推進、防災教育・安全教育の推進など、また「(2) 教育環境の充実」では、優れた教員の確保などについて記載しております。

「2 未来を拓く魅力ある学校づくり」におきましては、「(1) 社会的ニーズに応じた高校、学科の在り方」といたしまして、普通科や専門学科等の在り方や他機関との連携の在り方について記載するとともに、「(2) 学びの多様化への対応」として、定時制・通信制課程の在り方や学び直し、特別な支援を必要とする生徒への対応について記載しております。また、「(3) 少子化の中での高校の在り方」において、後ほど御説明いたしますが、学校配置の考え方や地区別の高校配置の方向性などについて触れております。

最後の第5章では、将来構想の推進といたしまして、家庭・地域・学校の協働や適正な進行管理について記載しているところです。

資料1にお戻りください。項目2の「県全体での学校配置の考え方」ですが、先程の資料2の第4章に記載がございます学校配置の考え方について、項目2に転記しております。記載内容を確認したいと思います。まず、1段落目になりますが、全県一学区について、平成22年度から全県一学区としていますが、平成26年7月の審議会による検証結果、またその後の動向から、3行目になりますがけれども一定の地区間の流動性は認められたものの、特定の地区や学校への生徒の集中は見られず、総体的には、近隣の高校へ進学する傾向が見られたということに記載しております。2段落目になりますが、このことから、基本的には地区ごとの高校への進学実績や公共交通機関の状況、生活圏等を考慮して、一定の地域的なまとまりの中で学校配置を考えていく必要があります、それぞれ状況の異なるいずれの地区におきましても、生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を整備し、教育の機会均等を確保する必要があるとしております。よって、各地区での学校配置を考えていく上では、その地区における高校の在り方を踏まえて、学習環境や課外活動の充実を図るため、通学への影響や地区内での学科バランスなどにも配慮して検討していくこととしているところです。

資料1をめくっていただきまして、2ページをお開きください。項目3で「大崎地区の高校配置の方向性」ということで、項目2と同様資料2から転記したものになります。こちら記載部分を確認する前に、大崎地区全体の高校のデータを見てみたいと思います。「参考1」は、大崎地区の全日制高校の状況になります。右ページの参考3に校名等記載しておりますとおり、学校数としては11校で、そのうち4学級以上の高校が5校であり、3学級以下が6校で、1校当たりの1学年平均学級数は3.9学級となっております。学科構成は記載のとおり普通科が56%を占めているという状況で、その他、総合学科、農業、工業、商業、家庭系の専門学科が配置されているところです。進学者の状況として、地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率は平成29年の値になりますがけれども69.8%ということで、おおよそ7割の中学生が地区内の高校に進学している状況となっております。今後の中学校卒業生数の見込みですが、「参考2」にもグラフとして掲載し

ておりますが、構想期間中の平成31年の1,861人から平成40年の1,614人とこの期間中に247人減少、割合にして13.3%減少する見込みとなっております。

これらの状況を踏まえまして、2ページの一番上、今後10年間の方向性になりますが、地区内に所在する高校の半数以上が3学級以下ということであり、充足率が低いこと、今後の中学校卒業生数の減少を考慮すると、再編を含めた学校の在り方を検討する必要があります。ただし、区域が東西に広く地域ごとに交通事情や地域特性も異なることから、いくつかのブロックに分けて学校の在り方について検討した上で再編を進めるとしているところです。この「いくつかのブロック」ですが、具体的には3ページにあるとおり3ブロックとしております。旧古川市部、遠田郡と旧志田郡を範囲とする東部、加美郡と旧玉造郡を範囲とする西部の3つに分けております。東部ブロックの詳細につきましては次に説明をさせていただきます。

資料1, 2の説明につきましては以上です。

【高橋教育次長】

本日の会議が第1回目でございますので全体のアウトラインをお話いたしますと、只今、現在議論が進んでおります「(仮称)第3期県立高校将来構想」について御説明いたしました。これから質問等受け付けますけれども、その後に大崎地区の現状について御説明いたします。それから意見交換に入りまして、最初に各高校の校長先生方からそれぞれの学校等の特徴等についてお話をさせていただきたいと思っております。その後同窓会の会長さんから校長先生のお話に加えてお話があればお伺いしたいと思います。その次に各市町の教育長さんと地域づくりを御担当されている方からそれぞれお話を伺って、それから送り出す側の中学校の校長先生、今日お二人に来ていただいておりますので、それぞれ御発言をさせていただきたいと思っております。第1回目の開催となる今日の会議の目的は、大崎地区の現状や高校の特徴、高校に期待することなど、構成員の皆様にご理解いただくということです。また、資料4にて今後の全体のスケジュール、進め方など説明しながら意見交換を進めていきたいと考えております。

それでは、今御説明いたしました資料1及び資料2について、御質問等ございましたら挙手にてお願いいたします。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

今日集まった人の顔ぶれを見ると、大崎地区の東部に限った高校のようです。この大崎地区には11の高校がありますが、松山、涌谷、鹿島台、小牛田、南郷に限ったというその説明をお願いいたします。

【事務局(佐々木教育企画室長)】

教育企画室長の佐々木でございます。御指摘のとおり大崎地区全体で見ますと、全日制

高校が11校存在しております。区域が東西に長いものですから、全体をひとかたまりで検討するというよりも細長い地理的特性を十分に考慮したブロック設定で検討していきたいと考えており、先ほどの資料2の3ページにもありますとおり、旧古川市部を真ん中に置き、その東西ということでブロックを分けたということになっております。この後の資料で御説明させていただきますが、その中で東部ブロックにおきましては学校が5つ存在するわけですが、それぞれの学校が規模としては現状で小さく、かつ生徒の集まりの状況も他地区に比べまして特徴的な状況にありますことから、検討の優先度が高いブロックではないかと考え、本日は東部ブロックを対象とした会議を開催させていただいております。

【高橋教育次長】

よろしいでしょうか。他にどなたかいらっしゃいませんか。説明が続いていきますが、その中でお気づきの点等ございましたら御質問いただきたいと思います。

それでは、報告(2)「大崎地区における高校の現状について」、事務局から説明をお願いします。

(2) 大崎地区（東部ブロック）における高校の現状について

【事務局（西城教育企画室教育改革班長）】

それでは(2)大崎地区（東部ブロック）における高校の現状について説明いたします。資料3をお手元に御準備ください。各校の詳しい状況につきましては、この後、各校の校長先生からお話があるかと思っておりますので、ここではデータの説明のみにとどめたいと思います。なお、資料3ですが、各高校の平成30年度の学校要覧のデータを使用して作成しております。1ページは、項目1「在籍生徒数」についてです。大崎地区の東部ブロックには、大崎地区11校のうち、松山高校、鹿島台商業高校、涌谷高校、南郷高校、小牛田農林高校の5校が所在しております。

まず、松山高校は、大崎市に所在し、普通科40名定員、家政科40名定員であり、1学年80名、2学級の高校でございます。在籍者数は記載のとおりですが、合計欄をみますと、普通科よりも家政科の割合が高い状況です。

次に、鹿島台商業高校ですが、こちらも大崎市に所在し、名前のとおり商業高校であり、商業科120名定員、1学年3学級の高校となっております。在籍者数は記載のとおり3学年合計で256名という状況となっております。

次に、涌谷高校は、涌谷町に所在しておりますが、普通科160名定員、1学年4学級の高校でございます。在籍者数は記載のとおり3学年合計で393名となっております。

次に、南郷高校は、美里町に所在しておりますが、普通科40名定員、産業技術科ということで、農業、工業、商業を総合的に学習する学科でございますが、こちらも40名定員、1学年80名、2学級の高校となっております。在籍者数は、記載のとおりですが、

合計欄をみますと、普通科よりも産業技術科の割合が高くなっている状況です。

最後に、小牛田農林高校は、美里町に所在しておりますが、大きく分けて農業系学科と総合学科がございます。農業系学科は、農業技術科・農業科学コースと農業技術科・農業土木コースでそれぞれ40名定員となっております。総合学科は120名定員となっております。1学年200名、5学級の高校となっております。在籍者数は記載のとおり、3学年合計で592名という状況でございます。

ページをめくっていただきまして、項目2「在籍生徒の出身地区」についてです。こちらは、各高校の生徒さんの出身中学校の所在地から作成した表になります。大きく分けまして、1段目は大崎地区出身者の数値、内訳として東部ブロック、旧古川市、西部ブロックと分けております。また、参考として、高校所在市町の出身者の数値も表記しているところです。2段目は大崎地区以外の他地区出身の生徒数を地区別に分けて表記しております。3段目は1段目と2段目の合計数値となっております。

高校ごとに見てまいります。まず松山高校を見ますと、大崎地区出身の生徒は、124名、72.9%となっております。そのうち東部ブロックからは79名、46.5%となっております。一方、大崎地区以外では、中部地区の出身者が最も多く35名、20.6%を占めているところです。

次に、鹿島台商業高校ですが、大崎地区出身の生徒は、84名で32.8%でありまして、他地区からの生徒さんが172名、67.2%と大崎地区出身の生徒を上回っている状況でございます。他地区のうちそのほとんどを中部地区が占めておりまして、165名、64.5%となっております。他の4校に比べて特徴的なところです。

次に、涌谷高校ですが、大崎地区出身の生徒が占める割合が比較的高くなっております。315名、80.2%となっております。そのうち東部ブロック出身者が286名、72.8%を占めており、地元率が高いと言える状況かと思えます。

次に、南郷高校ですが、大崎地区出身の生徒は95名、60.5%、そのうちほとんどを東部ブロックが占めている状況です。他地区のうち、2段目ですけれども、中部地区が35名で22.3%、次いで石巻地区が22名で14.0%を占めている状況です。

最後に小牛田農林高校ですが、大崎地区出身の生徒が510名で86.1%を占めており、5校中最も割合が高くなっています。その内訳といたしましては東部ブロック280名、47.3%、旧古川市175名、29.6%、西部ブロック55名、9.3%となっております。大崎地区全域から生徒が来ている状況です。

なお、こちらの表に記載はないのですが、5校の合計数値について参考としてお話ししますと、5校全体での大崎地区出身者の占める数値は1,128名で71.9%となっております。そのうち東部ブロック出身者は813名で51.9%となっております。

次に、3ページを御覧ください。各高校の生徒の通学方法についてまとめております。各校からの最寄り駅は表の右端に記載しております。全体的なところで申し上げますと、南郷高校を除く4校につきましては、鉄道（JR）の占める割合が最も高い状況です。松

山高校で106名，62.4%，鹿島台商業高校で194名，75.8%，涌谷高校で190名，48.3%，小牛田農林高校で348名，58.8%という数字になっております。南郷高校では，最寄り駅が鹿島台駅ということで学校から4.1kmという状況でありまして，鉄道（JR）は42名，26.8%，送迎を含むその他の割合が最も高く48名，30.6%，その次が自転車で44名，28.0%となっております。なお，いずれの高校においても送迎を含むその他の割合が10%を越えている状況です。

最後に4ページの各校の沿革ですが，記載のとおりであり，いずれも伝統校と言えるかと思えます。

説明については以上となります。

【高橋教育次長】

資料3，数値で見るこの大崎地区の現状について御説明いたしましたけれども，こちらについて御質問等ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは4の意見交換に入っております。ここからは最初にお話ししましたとおり，出席者の皆様にお話を伺っていきたくと思えます。その前に資料4について事務局から説明をしていただきます。

【事務局（西城教育企画室教育改革班長）】

それでは資料4について簡単に説明させていただきたいと思えます。「検討の流れ」という大まかな図になりますけれども，本日の第1回会議の開催趣旨といたしましては，大崎地区（東部ブロック）の高校の現状について把握し，構成員の皆様で共通認識を持っていただくということになります。これまでの資料説明において，基本的な内容について説明をさせていただきましたが，この後，大崎地区の構成員の皆様から高校の特徴や地域が望む高校などについて御意見をいただきたいと思えます。

第2回目以降になりますけれども，第1回目の現状を踏まえて，大崎地区（東部ブロック）の高校の在り方，方向性について意見交換をしてみたいと考えております。

予定といたしましては，最終的には，再編も含めた方向性を見出していきたくところですが，将来構想のアクションプランである再編整備計画に反映させたいと考えているところです。以上です。

【高橋教育次長】

今，今後の検討の流れについてお示したところです。この流れの中で議論を深めていきたいと思えます。

4 意見交換

【高橋教育次長】

第1回として大崎地区の現状の把握ということで、まずは各高校の校長から各校で重点的に取り組んでいることや特徴についてお話ししていただきたいと思います。時間の都合上、3分程度でお願いしたいと思います。

最初に松山高校の徳能校長お願いいたします。

【松山高等学校 徳能校長】

松山高校の徳能でございます。松山高校は皆様御存じのとおり、宮城県の中で最も小さな2つのクラス構成の学校で、一つは家政科、もう一つは普通科で構成しております。家政科については、「家政科に入りたい」ということで、目的や意欲を持って入ってくる生徒が大部分でございますが、普通科の方に入ってくる生徒はどちらかといえば「まだ目的が見つけられない」生徒が入学しております。家政科の方はどの学年も定員40名に対して30名以上の生徒が入っておりますが、普通科の方は一番少ないクラスで18名の生徒しか在籍しておりません。

松山高校に入ってくる生徒の一部は、中学校の時に学習になかなか馴染めず学習する意欲がなかなか起きずに学力が低迷していた生徒ですとか、コミュニケーションの部分で問題があって学校になかなか行けなかったという生徒が入学しております。そこで、学校では学習のつまづきを、学び直しをさせるような授業展開ですとか、コミュニケーション能力を高めるような行事などを取り入れながら、生徒たちが高校から社会に出て行く時に困らないように、そういう生徒を育てましょうということで学校を運営しております。県にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置をお願いしております。今年度はカウンセラーだけでなく、ソーシャルワーカーも付けていただきました。教員だけでは専門的な知識とかいろいろな外部資源を活用するということがなかなかできない面もございますので、そういったところでお手伝いをいただきながら、生徒一人一人に更には生徒の保護者にも向き合って、何とか高校を卒業して自信をもって社会に出て行ける生徒を育成しようということで頑張っております。

先ほどの通学方法の表にありましたけれども、松山高校は駅から3kmございまして、さらに最後にもものすごい坂があります。その坂をこの夏は気温35度というような中、汗を流しながら駅から歩いてくる生徒が沢山いるのですけれども、「がんばっているな」と思います。本当に偉いなと思うのですけれども、遠くても登校してくれるということで、私たち職員は、来てくれる生徒はとにかく一生懸命に育てよう、選んで来てくれた生徒に手をかけようと思っております。なかなか定員は満たさないとか、小規模人数での教育というところでは、まだ社会はそのようになってはいないと思いますが、今、松山高校で実際に生活をすると、人数が少ない環境で、生徒一人一人に向き合って学ばせていくという学校がやはり必要なのではないかということをととても感じております。確かに大きな学校では

ないので、部活をする制限ですとか予算面とかで制約がありまして、先生方に関しても校務分掌部長がほとんどすべての先生に割り当てられているような状況でとても忙しいですし、大変ではありますけれども、それでも生徒一人一人の顔が見えるということはとても良いことで、現在生徒の在籍が170人ですけれども、先生方は170人の顔も名前もバックグラウンドも全部理解した上で声かけができるということがとても強みであると思っております。不用意な声かけもなく、この子には今強い指導をしてもよいか、今この子の置かれている状況を考えれば、多少ルールを逸脱していたとしても少し優しい声かけをしなくてはいけないのではないかと、そういう細かく配慮した生徒指導ができています。松山高校の現状は以上でございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。続きまして鹿島台商業高校の三浦校長お願いいたします。

【鹿島台商業高等学校 三浦校長】

鹿島台商業高校の三浦でございます。よろしくお話をさせていただきます。各学校の特徴的な取組についてのお話をということで、まず本校の特徴についてお話しさせていただきます。

まず大崎地区唯一の商業高校ということと、県立の商業高校は全部で4校ございましてそのうちの1校ということでございます。大河原商業高校が統合ということですので、県立の商業高校は数年後には3校となります。その中の1校だということで、なかなか商業高校は厳しい現状であると思っております。

二つ目としては、先ほど在校生の数を御案内いただきましたが、現在256名でございます。定員の充足率は7割程度ということで、かなり厳しいと思っております。その256名の生徒の出身中学校のところで、先ほど御説明があったとおり7割程度の子供たちが塩竈、多賀城、松島、利府など大崎以外の入学生となっております。その点がこの鹿島台商業が他の高校と違う特徴的な学校なのだと思います。仙塩地区から現在多くの生徒が東北本線を使って通ってきているということです。ただ、なかなか学力的な状況は厳しいところでございます。県から基礎学力充実支援の事業の指定もいただきましてやっています。また経済的、家庭的にも恵まれない厳しい子たちも中に多くございまして、その点も大変な状況ですが、商業高校に入ってきて商業を学ぶ子供たち、将来経済社会においてその発展を担う人材育成ということを目標にしっかりと学校運営をしているところでございます。

特徴的な取組ということでお話をさせていただきますと、キャリア教育の推進ということで、子供たちを一生懸命巻き込んでやっていると、キャリア教育推進協議会を設置し、有識者の方々に本校に来てもらって、子供たちに御指導いただいたり、進路指導上の御助言をいただいたり、子供たちのために御意見をいただいたりしております。それから起業家教育というところにも力を入れてございまして、いわゆるアントレプレナーシップ

ということですが、学校設定科目で地域ビジネスプランニングという科目を設けて、3年生で最終的に地域のビジネスプランを立てるということに取り組んでおり、学習成果発表会などを行いながら先ほどのキャリア教育推進協議会の委員の皆様にご助言をいただいているという状況でございます。平成26年度にはキャリア教育功績表彰ということで文科省から表彰いただいております。

二つ目としては商品開発と地域連携ということで、積極的な取組を行っております。これまで7種類の商品を子供たちが開発しております。具体的には、デリシャストマトというものが鹿島台にはありまして、そういったものを材料にお菓子を作ったりお弁当を作ったりというところで商品開発を進めてきており、地域に貢献していくという自覚ができていくのだなと思っております。それからもう一つは地域連携ということで、積極的な展開をしております。鹿島台には春と秋に開催している互市があり、トマト祭り、わらじ祭りなどがあります。そういったことに積極的に参加して、開発した商品を販売するということで、地域との連携を深め地域の皆様から感謝や御支援の言葉をいただいております。社会に貢献できる人材育成ということで鹿島台商業高校は頑張っております。子供たちは他地区からの子が多いのですが、鹿島台地区での地域貢献を踏まえながら、自分の地域を顧みることができるということもあるのではないかと思っております。

最後に私も商業の教員ですので、商業高校の生き残りというところでは是非お願いしたいということで、最初のお話のとおり商業高校が少なくなっている現状、やはりこれは厳しいと思っております。この地域も当然少子化ですので、再編統合はやむを得ないという思いを持っておりますが、是非商業を基軸として総合ビジネス高校のようなものを作っていただければありがたいという思いでございます。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。続きまして涌谷高校の樋野校長お願いいたします。

【涌谷高等学校 樋野校長】

涌谷高校の樋野でございます。涌谷高校は普通科の高校ということで、大崎市にある古川高校それから古川黎明高校に入れなかった子供たちに是非涌谷高校に来ていただいて四年制大学への進学を目指す生徒を育てたいということで、普通科の教育をしております。進学だけではなくあらゆる進路に対応するシステムということで学校の方は進んでおります。卒業生の進路ですけれども、3分の1が四年制大学又は短大へ進学、3分の1が専門学校、3分の1が就職というような実態でございます。就職につきましても、地元大崎を中心に涌谷町内の企業に入っているという状況でございます。

本校の特徴としましては、普通科教育をする上で本校は昔から部活動が非常に盛んでした。運動部では、昭和の時代には女子ハンドボール部が県高総体で30数回優勝し、全国選抜大会での優勝実績もございます。平成に入ってからには新体操部がインターハイ、国体

等に出場しており、また運動部だけでなく文化部では、音楽、美術、書道、この芸術3教科すべてに専任の教員がおります。そういう芸術教育を充実させた上で普通教育をしようというのが涌谷高校の特徴となっております。

また、涌谷町は福祉の町ということで、学校の近くに福祉センター、それから町立病院、そういった福祉施設が点在しております。そういったところから協力をいただいて、家庭科の中の福祉のところで町の御協力をいただきながら様々な実習等をしているところでございます。

新たな取組としまして、本校では来年創立100周年を迎えるということで何か特色を出していきましようということで、涌谷町が福祉の町であり、本校の卒業生の中には看護であったり福祉系の学校に進学する生徒が非常に多いということから、3年生の選択のところで今までは進学の理系、文系、そして一般という形だったのですけれども、進学の理系、文系に続いてですね、看護医療系、それから福祉系のようなコースを設けまして、そこでしっかりと専門教科を学んでそして大学等へ繋げると、そしてまた町の施設をお借りしながら実習などそういうものを充実できればということで、来年度の入学生から一部教育課程を変えることとしております。

また、先ほど申し上げましたとおり、部活動が非常に盛んだということで、100周年を記念して何か地域に貢献できるものはないだろうかということで、今隣におります同窓会長さんとも相談いたしました。昔活躍した女子ハンドボール部や新体操について町の方々に何か恩返しできないかということで、今年の5月からジュニアスポーツ教室というものを週1回開催しております。当初どのくらい集まるかと心配したのですけれども、それぞれ15名以上、2つの種目で30名を越える子供さんたちが、毎週1回木曜日の夕方5時半から7時の間に本校にて大きな声を出して取り組んでいるという状況です。町の方々にもお手伝いいただいて、町と協力しながら子供たちを何とか育てていこうということで、今現在取り組んでいるところでございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。続きまして南郷高校の佐藤校長お願いいたします。

【南郷高等学校 佐藤校長】

南郷高校の佐藤でございます。よろしくお願いたします。南郷高校でございますが、物理的な状況、歴史その他につきましては資料のとおりでございますが、基本的には農業を基盤とした学校であるということは御理解いただいているかと思っております。以前は農業科、食品化学科、家政科等からなっておりましたが、現在は産業技術科1クラス、普通科1クラスという編成でございます。

私は今年の4月に赴任いたしました。生徒たちを見ていて、いろいろな存在感のある子供が多いなと思っております。大変素直な子供たちで、話をしているときちんと論理的に

話せる子もおりますしあまり話せない子もおります。そのような存在感のある子供たちについて、教育のし甲斐が十分にあると思っております。学校の雰囲気は来られた方はお分かりかと思いますが、非常に厳かな雰囲気があると思っております。子供たちは自分達の若さを武器にいろいろな活動を繰り広げています。

その中で今私が考えていることを申し上げます。このとおり、本校は非常に小規模で比較的オープンな雰囲気を持った学校でございますので、もう一度学校としてのアイデンティティをしっかりと打ち出したいということで、今いろいろな議論をしているところでございます。学校としての大きなミッションとしましては、一つは豊かな心を育むということ、それからその心に基づいて行動するということが、そういう人材育成をしたいと思っております。そのための具体的なビジョンといたしまして、一つはフラワーサービスプロジェクトという企画を平成26年度より行っておりまして、生徒たちが自分で栽培した草花を地元の小中学校の皆さんに提供し植栽したり、地元の農業施設や企業の方々へと販売活動をしたり、一緒に商品開発をしたり、そういう形で地域の住民の皆様との連携を図って協働学習を展開しているということでございます。これをさらに発展させていきたいと考えています。

もう一つのビジョンといたしましては、普通科があるということもございまして、少し古い言い方かもしれませんがアクティブラーニングの実践を試みております。生徒が主体となり、学習者としてきちんとアクトできるということ、考えるということ、発表すること、そして共有することです。その教材や発表内容はかなり基本的なものかもしれませんが、それらの表面上のことではなく、生徒たちの人材育成という観点から、しっかりと話せる、考えて話せるという人材を作りたい、そういう意味でのアクティブラーニングでございます。そのような形で今の学校の力を発揮させていきたいと考えているところでございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。最後になりますけれども小牛田農林高校の樽野校長お願いいたします。

【小牛田農林高等学校 樽野校長】

小牛田農林高校の樽野でございます。まず本校の現状をお話ししたいと思います。事務局で用意していただいた資料3を使いながら説明したいと思います。資料3の1ページ目、本校は農業技術科と総合学科、大きく分けると二つでございますけれども、農業技術科の方が2つのコースに分かれておりまして、カリキュラムが全て違いますので実質は3学科あると思っただけだと思います。3つが全く違うカリキュラムでございますので、1つの学校ではあります。中身的には3つの学校というような状況で授業が行われていると御理解いただければと思います。

在籍数は記載のとおりで、定員が600人なのですけれども、今年の3月の入試で農業土木が若干定員割れ、それから進路変更などがあり若干減っているものでございます。2ページ目、在籍生徒の出身地区ということで、先ほど御説明があったとおり、本校は大崎地区からの入学生が8割程度ということで大変ありがたいところではありますが、その下の他地区を御覧いただければと思いますが、他地区から来ている生徒が82名、13.9%おりますが、右に移っていただくとお分かりになるかと思いますが、各地区から万遍なく来ていただいております。南部地区には3名おりますが、遠い生徒では亶理から通ってきております。それと石巻、気仙沼からも通っている生徒がいる状況でございます。資料3の4ページを御覧いただくと本校創立130年ということで来月に記念式典が予定されております。本日は会長さんは御欠席ですけれども、同窓会を挙げて開催の準備にとりかかっているところでございます。

本校の取組についてでございますけれども、先ほど御覧いただいたとおり、大崎地区から8割以上の生徒が来ているということで、地域に根ざした人づくりを中心に行っているところでございます。資料3の3コースのカリキュラムでは農業科学コース、農業土木コースでは文字通り農業を中心とした授業を展開しております、実家が農家である生徒も沢山おりますが、非農家の子供が農業技術科に入学して農業の発展に尽力したいと学んでいる生徒もございます。総合学科の方は、1年次はほぼ決められたカリキュラムになりますが、2年次、3年次は生徒の興味関心に応じた授業を各自が選択するというので4系列に分かれて授業展開しております。高校1年生の段階で2年次、3年次の授業を選択するというので、実は昨日もあったのですが、いろいろな職業を見ましようということで7月の中旬から下旬にかけてですね、地元の企業に御協力いただいて職業実習を2日間行います。120名の生徒が全員2日間職業実習を行うので相当数の起業の御協力をいただいて実習を行います。職業体験を120名の総合学科生徒が発表し、自分が行けなかった職業の話もお互いに発表し合って、いろいろな職業をお互いに見聞きし合ってそれをベースに自分の興味関心に基づいて2年次の選択をしていくというような授業展開を行っております。

本校の卒業生の進路としては進学が3分の1、専門学校が3分の1、そして就職が3分の1で落ち着いているところでございます。就職試験の解禁日となっておりますので、面接試験の真っ最中なところもあります。私からは以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。校長先生方からお話がありましたが、同窓会や後援会の会長さん方から付け加えてお話ししたいことがあればいかがでしょうか。

我々の方からは数値で見る各学校について御説明をさせていただきました。それから今、数値では分からない各高校の特徴などについては校長先生方からそれぞれの思いを含めてお話をいただいたところです。

次に、市町から、町の施策と高校の関わり方など、それぞれの市町にとっての高校はどんな存在かという視点でお話しいただきたいと思います。

初めに大崎市教育委員会の熊野様よろしくお願ひいたします。

【大崎市教育委員会 熊野教育長】

大崎市教育委員会教育長を仰せつかっております熊野でございます。よろしくお願ひいたします。御存じのとおり、大崎市は東西に長く、距離を測りますと80kmということがあります。古川から仙台を大体40kmと考えれば仙台を往復する位の距離と捉えていただければ分かりやすいと思います。従って中心である旧古川市内に高校が集中する傾向にありますけれども、それぞれ通学のことを考えますと、東と西には高校が必要であるというおさえをしております。

大崎市は合併しまして広い地区ということになりますけれども、それぞれ特色ある高校を子供たちがそれぞれの考えをもって選択し活動しておりますことを改めて各高校の校長先生はじめ先生方に感謝しているところであります。

高校の存在は大変ありがたく、小規模校は小規模なりにそれぞれ特色ある高校づくりをされていると実感しているものの、やはり高等学校の将来を見ますと、少子化に伴う生徒数の減少を見るとかなりの特性が現れており、再編することはやむを得ないことではないかと考えております。その中で通学ということと、さらに将来の有りよう、社会の変化をにらんでのさらなる特色ある高校づくりに関しましてよろしくお願ひしたいと考えております。私からは今のところは以上でございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に涌谷町教育委員会の佐藤様お願ひいたします。

【涌谷町教育委員会教育総務課 佐藤班長】

涌谷町教育委員会の佐藤と申します。私の方からも先ほど大崎市の熊野教育長様からお話があったとおり、各校の校長先生方から伺いまして、学校経営などいろいろと工夫され特色ある学校づくりをされているということを実感したところであります。その中において再編ということで、当時の小中学校においても再編を行ったところでございますが、なかなか再編という問題は非常に難しい問題だということを実感しているところでございます。

地域の中の学校ということで、当町のことをお話しさせていただくと、涌谷高校さんは小学校の学区の通学路の中にあり、それから中学校では帰る時間が一緒であったりするなど、小さい頃から非常に身近で親しみを感じていると捉えております。今回在り方検討会ということで始まっておりますが、再編という問題は非常に難しい問題でございますので、丁寧な議論等を進めた中で、話し合いを進めていただければと思っております。私の方から

は以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。先ほども御説明いたしましたけれども、今日は市町長部局の方にも御参加いただいておりますので、順番に御意見をお願いしたいと思います。先に美里町企画財政課の佐野様お願いいたします。

【美里町企画財政課 佐野課長】

美里町企画財政課の佐野です。美里町につきましては平成18年1月に旧小牛田町と旧南郷町が合併してできた地域でございます。旧小牛田町につきましては小牛田農林高校、こちらは創立130年、旧南郷町につきましては南郷高校が平成33年度に創立90周年を迎えるということで県内でも有数の伝統校を抱える地域でございます。旧南郷町の発展に多大な貢献をいただきました名誉町民であります地元の野田氏が私財を投じて設立された南郷高校ということもございまして、地元にも卒業生も多く、地域との関わりも深くなっているところでございます。

また、両校の生徒の皆様につきましても、町の事業、国際交流だったり環境美化であったりという事業に対しまして協力をいただいております、町の方からは大変感謝しているところであります。また、町としましても、独自に運行しております住民バスというものがあるのですが、そちらを学校の時間に合わせて運行するなど通学の方にも配慮している状況でございます。

この会議につきましては、再編という大変難しく丁寧な対応が求められる課題について答えを見出す会議であると認識しておりますけれども、こちらは要望といいますかお願いということになるのですが、先ほどの資料で既にパブリックコメント、地区別意見聴取会も行っているということですので、地域の学校に対する思いということにつきましては、もっと様々な意見が出てくると思います。時間的な制約はあると思いますが、今一度聴く機会を設けていただけないかということが町の意見でございます。よろしく願いいたします。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に大崎市の市民協働推進部長の門脇様お願いいたします。

【大崎市市民協働推進部 門脇部長】

市民協働推進部長を務めております門脇と申します。教育的観点からは先ほど熊野教育長よりお話がありましたので、私は街づくりの観点からお話をさせていただければと思います。大きくは3点になります。

一つは、人口減少の問題は、構造的なものを考えますと今後ますます進んでくるという

認識を大崎市でも持っております。そういう観点から見ると、大崎圏域だけの生徒数を想定した再編というよりは、例えば先ほどお話がありました鹿島台商業高校さんについては中央の方からも大分来ているということでございますから、中央圏も視野に入れた新しい学校という発想もあってもよいのかなということが1点でございます。

もう一つは、将来の人材を育てる高校というものはとても大切だと思います。大崎市の例を挙げますと、病院であれば市民病院あるいは介護施設等が多くございます。これからの高齢化を考えた場合に、例えば看護師あるいは介護士などというのは不足が予想され重点的に育てていかなければいけない人材だとすれば、そういういろいろな施設等と連携した高校というものが当然あってよいのではないかと考えております。

それから高校生というのはいろいろな場面で大きな力になると思いますし、町にとっては大きな起爆剤となると考えております。例を挙げますと1、2週間ほど前になりますが、私どもの方で、市長移動室を黎明高校さんの文化祭を活用させていただいて実施したのですが、その中で高校生4人に参加いただいたのですが、いろいろな発想でお話をいただきました。我々が気付かないような街づくりの視点もお話いただきましたし、鹿島台商業高校さんはじめいろいろな高校さんでもそうだと思いますが、地域に根ざしたお祭りに参加したり、あるいはこれからの街づくりタウンミーティングに参加したり、そんなところもあると思いますし、やはり高校時代にいろいろなことにチャレンジすることは自分の将来を考える良いきっかけになるのではないかと考えていますので、そういった地域との関わり、街づくりの関わりを持った高校を是非これからも目指していただきたいなと考えております。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に中学校の校長先生方には送り出す側から見る高校という視点などからお話をいただければと思います。

初めに鈴木校長先生お願いいたします。

【大崎市内小中学校長会 鈴木副会長】

古川中学校の鈴木でございます。新たな構想づくりという時期を迎えまして、少し視点は変わりますが高校の在り方、学校づくりという視点から2点述べさせていただきます。まず1点目は不登校生徒の対応についてです。中学校で特に課題となっておりますのが不登校でございます。不登校に陥ってしまう原因は様々で、中学校では不登校に陥らないために中1ギャップへの対応やソーシャルスキルトレーニングを取り入れるなど、学級づくりを通じて的確な人間関係づくりのため努力を続けているとともに、県、市町教育委員会をはじめ他機関から相当な支援を受けながら取り組んでおります。しかしながら、生徒が不登校となってしまうことを減らすことに本当に苦慮している状況でございます。また不登校に陥ってしまった生徒を再び登校できるようにするという事はそう簡単なこ

とではありません。毎年数名の生徒は再び登校できるようになりますけれども、決して多数ではありません。ここでお願いですが、小中学校で不登校だった生徒が安心して進学できる仕組みづくりにさらに取り組んでほしいと考えております。登校できておりませんので、学科試験で十分な得点を臨むことは難しいです。コミュニケーションづくりも苦手ですから面接試験にも苦慮します。しかし彼ら彼女らのその時点ではまだ出ていない力や可能性は相当あると信じています。

答申案の中にも学び直しという言葉が度々出ておりますが、その学び直しにじっくりと取り組み、自己肯定感を得て、自らの志を意識できるようになるために必要な時間をじっくりかけられるような、教育や指導ができるような環境を公立高校の中に是非作ってほしいと考えております。不登校は一人一人の問題かもしれません。しかし現実にこれだけ沢山現れている中で、この問題を社会問題として対応し、社会として子供たちの成長を担保するために適切な支援を継続できる環境を是非作っていただきたいと考えております。

もう1点は特別な支援を必要とする教育の推進についてです。答申案にも高校における特別支援教育の充実がうたわれており、インクルーシブ教育システムの充実が述べられています。その中で特別支援学級はほとんど全ての中学校に設置されていますが、そこに在籍する生徒の進学先の環境整備が十分ではないと感じております。知的障害のある自閉症、情緒障害、発達障害の生徒については、高等学園及び特別支援学校高等部に受け入れていただき、自立社会参画に向けた指導や支援を受けさせていただいておりますが、一方で小中学校では知的障害のない、自閉症、発達障害の生徒の増加が見られ、中には普通学級に在籍して通級による指導を受けながら集団に適応すべく日々努力している生徒もいます。こうした中、彼らの高校段階の教育環境は十分ではないと思います。どうかそういう子供たちもしっかりと支えられる環境の整備を進めていただくようお願いしたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に及川校長先生よろしく願いいたします。

【美里町小・中学校長会 及川副会長】

南郷中学校の及川でございます。よろしく願いいたします。私も今の鈴木先生と同じ部分がありますので、できるだけ被らないところでお話させていただきたいと思います。

やはり高校に入って、知的障害はないが、発達障害がある子供たちが友達とトラブルを起こしてしまい、高校には自宅謹慎等々あるものですから、そこからどんどんと学校から足が遠のいてしまい最終的には進路変更もやむなしという形になってしまう。それとやはり不登校の場合はどうしても授業を受けていない部分もあり進学する高校が限定されてしまうことがあるということで、そのところが非常に心配です。

それから先ほどから交通の便が良いという学校がありますけれども、交通の便が良いと

通い易いですがけれども、逆にこの地区からどんどんと出て行ってしまう部分もあると思います。鹿島台商業さんのように中央からも来ていただいている学校もありますが、もしかするとそれ以上にこちらから出て行ってしまふ、先ほどの数字では約3割が大崎地区から出て行ってしまふということですが、それをどのようにしていったらよいのかということが一つの課題となっていくのではないのでしょうか。

また、地域のいろいろなお祭りの担い手になっているのが中高生であるのではないかと思います。私が前に高校教員をしていた頃、お祭りに高校生を連れて行ったとき、青年会婦人会というのは若い人たちの集まりなのだと思っていたら、ほとんど高齢者の方が手踊りに参加しておりました。全く若い人がいない中でお祭りをやっていかないといけないとなると、やはり地域の高校生がものすごい力になっている部分もあるので、そのためにも地域の良さというものを高校生や中学生に再確認をさせなくてはいけないのではないかと考えているところです。幸い今年度12月に、志教育の発表を南郷中学区ということで発表させていただくことになっております。その中で、小中高ということで南郷高校さんと連携しながら未来の南郷ということで話をする予定になっております。今はスクールバス等で高校生と中学校と小学生が一緒になる部分が少ないのですね。ですから小学生も高校生のイメージが全くなくて、そういったところをどのようにしたらよいのかということが難しいところではないかと思っております。

最後になりますが、本校のある美里町も先ほども話がありましたが、今3校の統合ということで非常にデリケートな状態になっております。さらに高校再編となるとかなりいろいろなことが出てくるのではないかと思っておりますので、丁寧にやっていただければという思いでございます。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。すみません、先ほど順番を間違えてしまいまして大変失礼いたしました。涌谷町企画財政課の三浦様よろしく願いいたします。

【涌谷町企画財政課 三浦課長補佐】

涌谷町企画財政課の三浦でございます。涌谷高校におかれましては、当町において来年100周年を迎えるということでいろいろな活動をお聞きしているところです。元々は女学校として地元意識の強い学校であったと聞いております。当町の涌谷高校はおそらく他の地区と比べて、学校の南側に道路があり町の中心的な部分であるため、全ての町民がこの涌谷高校をよく見ているのではないかと思います。先ほど教育委員会の佐藤からもありましたとおり学校に通う際も中学生と一緒に歩いて学校に通っています。そういう部分では、ある意味小・中学生の見本となるかけがえのない存在と考えております。また、町のお祭りや活性化、これからの福祉関係の部分についても御協力いただきながら、カリキュラムも変えていただきながら町としてもバックアップし、バス等についても配慮しており

ます。

涌谷町につきましても中学校の統廃合があり、町内には山が結構あることから、条件的に通学に不利な地域の方々もいらっしゃいます。そのような中で再編というのはデリケートな問題でありますので、その部分も含めて今現在各校さんが特徴ある活動をしている中でその成果が出ている部分も多々あります。そういった部分も考慮しながら丁寧に議論をしていただければと考えております。以上でございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。今日はこの地域の高校の状況について共通理解を皆様に持っていただくことが第一の目的でございます。我々も将来構想の状況とこの地域のそれぞれの学校の現状を御説明させていただきました。それから数値では見えない部分について各校長からお話をさせていただきました。また、市町から見た学校の姿ということでお話もいただきました。今後どうあるべきかというお話も今日はひととおり皆様から御発言をいただいたのですけれども、更に御質問なり御意見があればお話をいただきたいと思っております。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

松山高校教育後援会の奥山と申しますけれども、今お話を伺ってましたら、各学校で特色ある教育、その学校に集まっている生徒にとって必要な教育指導というものが行われているなと思って伺っておりました。それから各地域の方々から各学校に期待している部分があったものと思っております。どうして再編していかなくてはならないのかというと少子化という、これは社会の構造的な変化に伴うどうしても対応していかなくてはならない部分ですから仕方ないのですけれども、それによって高校が減ってしまう、町から無くなってしまう、それによって失うものも出てくると思っております。その失われるものをどうするのかということ抜きにして、数合わせのような形で進めてはならないような気がしております。

特に各学校にこの学校にしか入れないという形で入ってくる生徒にとっては、新しい学校に行ってこれまで行われてきた指導というものができるとかどうかということ、その生徒が高校生活を3年間きちんと行っていくということに大きく関わってくると思うのですね。そういう意味で丁寧な議論をということを皆様お話しになっておりますが、それ以上に慎重に取り組んでいただきたいと思っております。効率的に考えるだけではなくて、相手は生身の人間です。不完全な、小さな学校に集まってくる生徒というのは普通以上にそのような指導というものを必要としている生徒ですので、それが人数集めたからといって解決できるわけではないわけです。人数だけ沢山集まるような学校を作ってもですね、それらの指導がきちんと生きてくるのかということは大きな問題だと思います。そのことを私は痛切に感じておりますので、その辺のところをしっかりと踏まえて議論を進めていただきたいと思いますと思っております。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。では事務局から。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

大変重要な指摘だと思っております。先ほどのお話の中では、こういった検討をする上では丁寧な対応が必要であるという御意見もありましたし、そうは言っても地域にとっての高校の存在も意識しながら慎重な対応も必要だという御意見だったかと思えます。現時点でどの高校をいつまでにどうするということを決めてこの場に臨んでいるわけではありませので、そういう意味では今後何回かこの会議で皆様から意見を伺いながら方向性を見出して行きたいと考えておりますが、そういった慎重なあるいは丁寧な姿勢は確保しながらお話を伺わせていただければと思っております。

【高橋教育次長】

それでは佐々木会長どうぞ。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

先ほどの話を聞いておりましたら、平成31年から平成40年までの間にこの大崎地区では247人の子供たちが減っていくというデータが示されました。私、石巻に関わって仕事をしているのですが、石巻では震災以降毎年100人くらいずつ中学生が減っておりまして、平成29年度、昨年度と今年度では1年間に516人の中学生が減りました。それに比べて大崎地区の減少率は非常に緩やかであるという思いしております。

もう一つは、大崎地区に11ある学校で普通学科と職業系の学科がちょうど50%くらいの割合になっているという話が7月の会議で報告されました。是非先ほどお話しがあったように、この地区には農業高校あり、商業高校あり、工業高校あり、それから必要とされてくるであろう介護、そのようなところで是非50%、50%のバランスを保ちながらキャリア教育を推進していただければありがたいという思いしております。是非子供たちの将来、進路を考えた学校の設置を考えていただきたいと思えます。以上です。

【高橋教育次長】

では事務局から。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

お話にありましたとおり、石巻地区においても平成40年度までの間に大幅に生徒数が減少するという推計とイメージを我々も持っております。この地区においても石巻地区においても、まとまった単位で人数が減っていくこと、さらには減る率というものですね、

パーセンテージで言いますと大体同じ程度で減ることになりますが、ただその数字だけ見て決められるものではないと思っております。例えばそれぞれの地区における学校の数であるとか、それぞれの学校の規模、1学年の学級数であるとかですね、それとお話にもありましたとおり、専門学科と普通学科のバランスの問題といったようなものもありますので、一概に比較できるものではないと思っております。特にこちらの地域におきましては、冒頭に申し上げましたとおり地理的に東西に長い広いエリアであると思っておりますので、そういった意味では通学への配慮といったようなところ、あるいは学科のバランスという観点で、中学校を卒業されてくる生徒が自分の学びたい環境を自分の意志で選択できる環境を考えることも必要となってくると思っておりますので、そういった部分につきましても皆様の御意見をいただきながら方向性を見出せればと思っております。

【高橋教育次長】

他にございますでしょうか。北部教育事務所の小野寺所長、何かございませんか。

【北部教育事務所 小野寺所長】

教育事務所は小中学校ということですが、改めて校長先生方、後援会同窓会の会長様方、市町の方のお話を聞いて、我々は今聞いていることを現場に、今及川校長先生と鈴木校長先生に来ていただいておりますが、校長先生方にもこのような話合いが行われているということをお伝えしながら今後の進捗を見守っていきたいと考えております。

【高橋教育次長】

今日は第1回ということでこれから議論を深めてまいりましょうということですがけれども、いろいろと資料を出ささせていただきました、各校の沿革等も見ますと一番古い学校で明治29年開校というどの学校を見ましてもこの地域の伝統校でありますし、またその同窓生は非常に多いと思っております。それぞれの高校の思いはもちろんございますので、今日いただいた議論を持ち帰って、我々の中でも議論しながら次の会議にまた改めて御説明をさせていただき、御理解をいただきながらこの会議を進めていきたいと考えております。本日の予定は以上でございますので事務局に進行を返したいと思います。

5 その他

【司会】

長時間にわたりありがとうございました。では、次第「5その他」ですが、何かありませんでしょうか。

【小牛田農林高等学校 樽野校長】

すみませんが、事務局にお願いがあります。資料1の2ページに大崎地区の卒業生数の見込みがあるのですが、我々大崎地区の東部ブロックを対象に話をしておりますので、できればこの東部、西部、旧古川市部に分かれた数値もあとありがたい。通学範囲等もお調べいただいて非常に分かりやすくなっておりませんが、この大崎地区、熊野教育長さんがおっしゃっていたとおりに東西に長い地区ですので、この3ブロックで構いませんので、ブロックごとでの見込みに分けていただくと参考になるのかと思います。可能な範囲で次回に向けてお願いできればと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

今後議論をしていく上での御提案と受け止めさせていただきました。推計する上で一定のデータを用いてやっておりますので、そのデータが取れるかどうか、次回の会議にお出しできるかどうかこの場では言いづらいたころがございますので、検討させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【司会】

他に何かございますでしょうか。それでは、次回の会議についてですが、11月上旬の開催を予定しております。詳細な日程につきましては、皆様に日程を照会した上で事務局から御連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

6 閉 会

【司会】

それでは、以上をもちまして「第1回大崎地区における高校の在り方検討会議」を閉会いたします。どうもありがとうございました。